

賃貸住宅建設の大東建託（東京）がまとめた、居住地以外の「住みたい街」を問う全国調査で、自治体別の1位に福岡市が2年連続で選ばれた。物価の安さや程よい都市の規模などが住みやすいイメージにつながったとみられる。九州・沖縄では2位に那覇市、25位に沖縄県石垣市、30位に熊本市が入った。

2年連続で1位になった福岡市のイメージとして「居心地が良く、食べ物がおいしい」「ごみごみしておらず、のんびり暮らせる」などの意見が寄せられた。繁華街が複数あり、商業施設や飲食店の充実度が高いとされる。特に九州各地や山口県の居住者からの支持が強い傾向にあり、吸引

「住みたい街」福岡市が2連覇

全国調査 物価や程よい規模 好イメージ

「住みたい街」トップ10

順位	前回	自治体名
1	1	福岡市
2	3	那覇市
3	2	横浜市
4	4	仙台市
5	5	札幌市
6	8	大阪市
7	6	神戸市
	9	東京都港区
9	7	京都市
10	14	東京都千代田区

力になっている。

このほか、九州・沖縄からはトップ50に北九州市（37位）、長崎市（38位）、鹿児島市（41位）、大分県別府市（同）、宮崎市（44位）、沖縄県宮古島市（48位）が入った。都道府県別ランキングでは3位に福岡県、4位に沖縄県、19位に大分県、20位に熊本県、22位に長崎県、24位に

鹿児島県が選ばれた。

鹿兒島県が選ばれた。

実際に住んでいる街の「住みこち」ランキングの自治体別上位には、5位に福岡市中央区、33位に同市城南区、37位に福岡県新宮町が入った。福岡市は行政サービスや家賃水準を魅力的に感じる人が多いという。大規模な宅地開発や鉄道駅周辺開発が進んだ福岡県福津市は前回の102位から46位に躍進した。

調査は、今年3月にインターネット上で実施。「住みこち」は2019年以降のデータを含めた累計約52万1千人の回答を集計。「住みたい街」は21年分の約18万7千人の回答をまとめた。

（布谷真基）